

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0891200040		
法人名	有限会社 修明		
事業所名	グループホーム 和み水府		
所在地	茨城県常陸太田市国安町1627-1 (電話) 0294-70-5753		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年7月17日	評価確定日	平成21年1月8日

## 【情報提供票より】 (平成20年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,100円~54,000円	その他の経費(月額)	19,800円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100円		

### (4) 利用者の概要(平成20年7月1日現在)

利用者人数	7名	男性 2名	女性 5名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	1	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 89歳	最低 78歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐竹南台菜のはなクリニック, 志村大宮病院, 日立梅ヶ丘病院
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは澄んだ空と緑の山々に囲まれ、夏には蛍が飛び交う田園地帯に位置し、敷地に野菜畑・花畑・広場を作っている。  
季節の花を飾るとともに、四季折々の景観が利用者の心に安らぎと潤いを与え、ゆったりと穏やかに生活ができるよう環境づくりに配慮している。  
管理者や職員は常に日常の五心(素直・反省・奉仕・謙虚・感謝)を念頭に、利用者との関わり方を重視しサービスの質の向上に努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 初回の受審により該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価票を全職員に配布し、課題の改善について検討するとともに、自己評価を管理者と全職員で作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は市職員や民生委員、地区長、利用者家族等で構成し半年に2回開催しているが、2ヶ月に1回定期的に開催するとともに、ホームが抱えている課題や現在取り組んでいる内容についても議題とし、出された意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置するほか、職員は家族の来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴き、カンファレンスで話し合うとともにその結果を運営に反映している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区の一人暮らしの高齢者を招いて、ミニサロン会の開催やお花見と一緒に出かけるなど地域の人々と交流している。
	重点項目④

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域と交流しながら穏やかに人生を謳歌できるよう、利用者本位の生活支援を行うことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や事務室、リビングに掲示するとともに、朝礼時やケアカンファレンス時に理念の意義を確認し合い、具体的なケアの実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の一人暮らしの高齢者を招いてミニサロンの開催やお花見に一緒に出かけるなど地域の人々と交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を全職員に配布し、課題の改善について検討するとともに、自己評価を管理者と全職員で作成している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員や民生委員、地区長、利用者家族等で構成し半年に2回開催している。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催するとともに、ホームが抱えている課題や現在取り組んでいる内容についても議題とし、出された意見をサービスの質の向上に活かすことを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	要介護認定更新時や生活保護の手続き等の際に行政の担当者と意見交換を行い、運営上の報告や相談をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書と一緒に利用者の暮らしぶりや行事予定をそえて報告するだけでなく、3～4ヶ月に1度、“和み水府便り”を発行している。 利用者の状況に応じ、随時電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するほか、職員は家族の来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴き、カンファレンスで話し合うとともにその結果を運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在職員の異動は行っていない。 利用者本位の支援を最優先に考え、職員の配置(係り)を決めている。	○	利用者の担当者が決まっているので、職員の離職時は事前に顔合わせや申し送り、家族への報告を徹底し、利用者の不安を最小限に抑える配慮が望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の年間研修計画を作成していないが、定期的に内部研修を実施している。 しかし、外部研修は一部の職員のみが受講している。	○	計画的な外部研修の受講体制整備を期待する。 研修受講者は報告書を作成するとともに、会議等で報告し職員のスキルアップを図る取り組みを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者はグループホーム協議会や地域実践型介護サービス協議会に加入し、地域の同業者と交流するとともにホームのサービスの質の向上に取り組んでいるが、職員間での交流を行うまでは至っていない。	○	他のグループホームの見学や相互研修会などを計画するとともに、事業者同士で協働してサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者にはホームを見学してもらったり、日中体験利用をしてもらったうえで話し合いの場を設け、利用者や家族が納得してから利用を開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と掃除や食事の準備、カラオケ、野菜作り、草取りなどを一緒に行い、共に支えあいながら生活をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の日々の会話や行動のなかから、一人ひとりの希望にそった支援をしている。 また、希望の把握が困難な利用者の場合は家族から情報を得るよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの思いを大切に、利用者にあった暮らしができるよう利用者や家族の要望をもとに、全職員でカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回定期的に見直しをしている。 また、利用者の状態の変化に応じ家族の意見を聴取したうえで、随時見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊サービスやドライブ、買い物、行政への事務手続き代行など利用者や家族のニーズに応じ柔軟に対応をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能な協力医療機関を確保するとともに、利用者の健康管理のため月2回の往診と月4回の訪問看護を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の終末期の対応や運営方針マニュアル及び意思確認書を作成し、職員間で共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応、書類の取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりのペースに合わせ、ゆったりとした流れのなかで支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど職員は利用者のできる範囲で一緒に共同作業をしている。食事中はテレビを消し、会話を楽しみながら職員も一緒に食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに午後2時頃からと決まっているが、利用者の希望にそって支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作りやカレンダーめくり、読書、カラオケ、洗濯物たたみなど、日々の生活のなかで利用者一人ひとりに合った役割や楽しみごとの場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に注意しながら、ホテル街道を散歩したり、和み憩いの場で外気浴を楽しんでいる。 また、利用者の希望によりぶどう狩りや外食、ドライブの外出支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や職員は施錠することの弊害を認識しており、施錠していない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと普通救命講習と内部研修を行っているが、総合的な避難訓練や防火管理計画書が未作成である。 また、災害時に地域の人々と連携するまでには至っていない。	○	自治会や運営推進会議で協力を呼びかけ、災害時に地域の人々から支援を得られるよう働きかけることを期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの摂取量や栄養バランス、水分量を把握し、状態に応じた支援をしている。	○	市の栄養士など専門家の意見を取り入れた献立を作成することが望まれる。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや食堂に季節の花を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。 廊下の手すりの位置を低目に設置し、使用しやすいよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は利用者や家族と相談し、馴染みの机や椅子、筆筒、テレビなどを持ち込み、居心地良く過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。